

令和 7 年度 建設外部評価委員会

社会資本総合整備計画

* 社会資本整備総合交付金

* 防災・安全交付金

公園部整備課



社会資本整備総合交付金

- ① 民間活力を活用した都市公園の再整備(重点)
- ② 地域ニーズに即した都市公園ストックの再編
- ③ 安全・安心や環境に配慮した公園整備等の推進



① 民間活力を活用した都市公園の再整備(重点)

- * 緑の基本計画での位置づけ
- * 整備計画の内容
- * 交付対象事業
- * 事業の概要
- * 事業効果の発現状況、目標値の達成状況
- * 特記事項



緑の基本計画での位置づけ

① 展開されるゾーン

- ▶みどりのゾーン ～いのちをまもり育む緑～
- ▶まちのゾーン ～彩りと潤いのある緑～
- ▶田園のゾーン ～実り豊かな緑～
- ▶ゾーンのつながり ～水と緑のネットワーク～
- ▶協働と参画 ～みんなで支える緑～

緑の基本計画での位置づけ

② 施策の展開と取り組み

● まちのゾーン

方針▶緑の資産を適切に維持管理・更新し、利活用を促進することで
安全で快適な空間をつくる

取り組み▶時代のニーズに対応した公園施設等のリニューアルと適切な保全
▶公園等の安全性の向上とバリアフリー化
▶シンボルとなる公園の魅力向上
▶街路樹により風格あるまちなみづくりや心地よい木陰の確保

整備計画の内容

● 計画の期間

- ▶ 令和3年度～令和5年度(3年間)

● 交付対象

- ▶ 神戸市

● 計画の目標

- ▶ 神戸を代表する白砂青松の景観を有する須磨海岸エリア全体の魅力向上を目的に、Park-PFIを活用し、歴史的・文化的景勝の地であり、周辺住民の憩いの場となっている海浜公園の再整備を実施する。

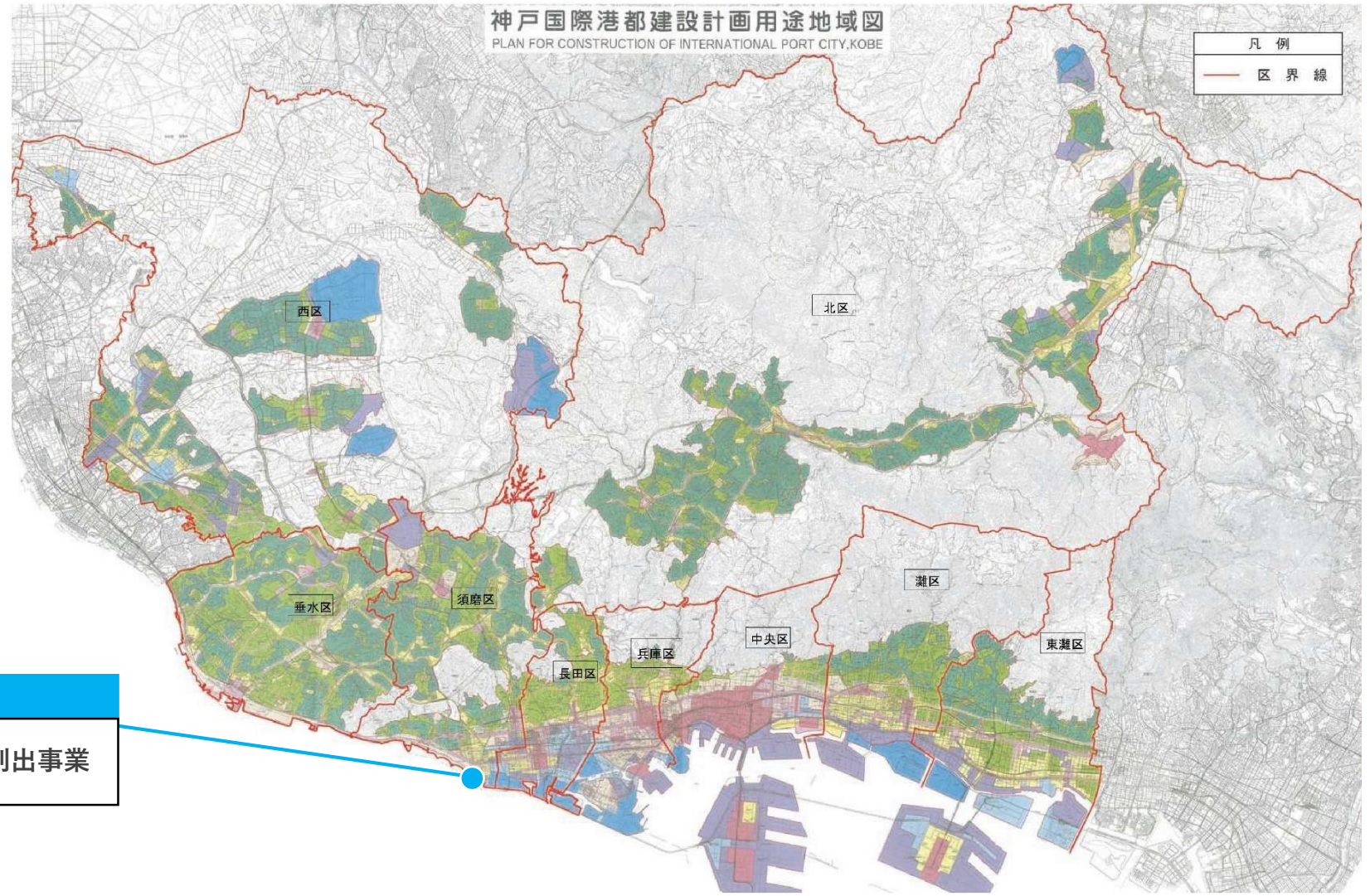
整備計画の内容

● 計画の成果目標(定量的指標)

- ▶ 公園施設の改修の次年度において、民間事業者が計画する利用者数900千人増の実現を目指す。【新水族館の入園者数】
1,100千人(コロナ前3か年の平均値※) ▶ 2,000千人(R6末)
- ▶ 公園施設の改修次年度において、駐車台数9万台増の実現を目指す。
24万台(コロナ前3か年の平均値※) ▶ 33万台(R6末)

※コロナ前平均値は、平成29,30,令和元年の平均値

交付対象事業



海浜公園

【A-1】官民連携型賑わい拠点創出事業

事業の概要

【A-1】官民連携型賑わい拠点創出事業

※R4年度より社会課題対応型都市公園機能向上促進事業へ移行

● 事業者

▶神戸市(神戸須磨Parks+Resorts共同事業体)

● 内容

▶海浜公園再整備(約4.8ha)

● 事業実施期間

▶令和3年度(事業全体では令和3年度～令和6年度)

● 事業費

▶280百万円(令和3年度)

▶1,100百万円(令和3年度～令和6年度の事業全体)

事業の概要

● 整備内容

- ▶公募対象公園施設整備：水族館・ホテル・にぎわい施設
- 特定公園施設整備：遊具、ベンチ、園路、パークコンシェルジュ棟
- 松の保全と活用

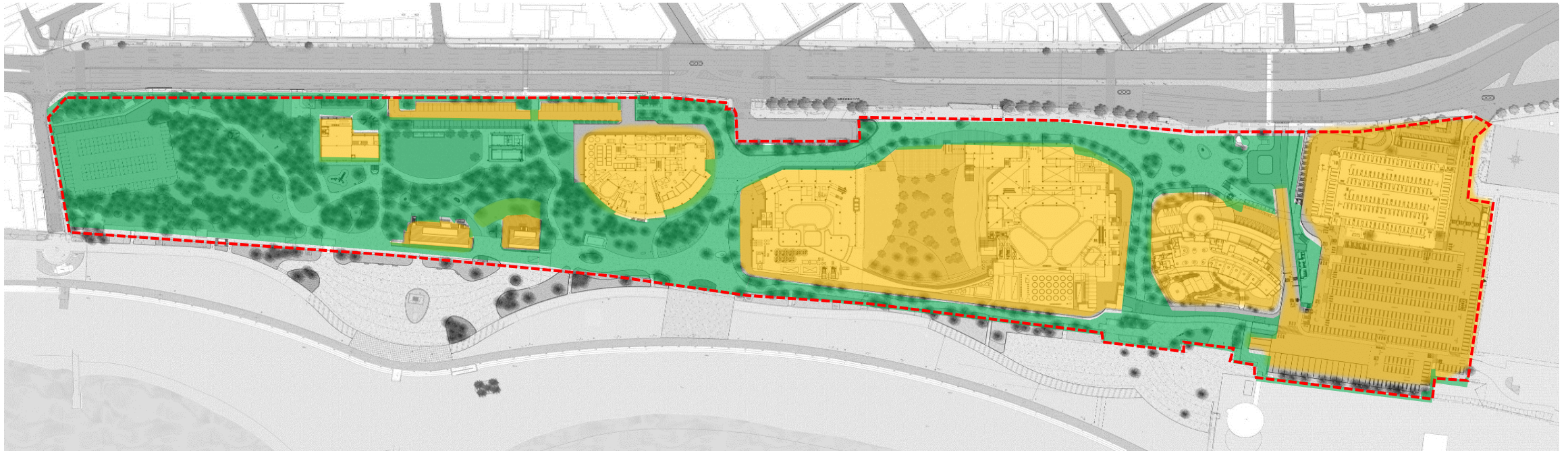
● 対象面積

- ▶10.9ha(うち特定公園施設の整備 | 4.8ha)※公園面積：13.9ha

● 整備状況

- ▶水族館をはじめとする公募対象公園施設と、園地が一体的に整備されたことにより、公園ににぎわいが創出された。

事業の概要



Park-PFI事業区域

特定公園施設

公募対象公園施設

事業の概要



事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

再整備前

- ・水族館は昭和62年にリニューアルされて以降、30年以上園地を含めた抜本的な再整備は実施されていなかった。
- ・設備をはじめとして全体的に老朽化が進み、来園者のニーズに十分に对应できない状況が生じていた。
- ・今後も持続的かつ安定的に運営していくために、民間活力を取り入れた抜本的な再整備による魅力向上が求められていた。



再整備後

- ・ Park-PFI制度を導入し、民間の資金とノウハウを活かすことで、水族館やホテルのほかにレストランやカフェ等幅広いコンテンツの提供が可能となった。
- ・ 園地についても、遊具や園路等の施設が一新されることで、幅広い世代の利用者が公園を楽しめる空間となった。その結果、公園利用者が増加した。

事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

● 費用便益費

▶ 当初B/C 2.95 → 整備後B/C 2.91

【大規模公園費用対効果分析手法マニュアル（国土交通省）による】

事業効果の発現状況、目標値の達成状況

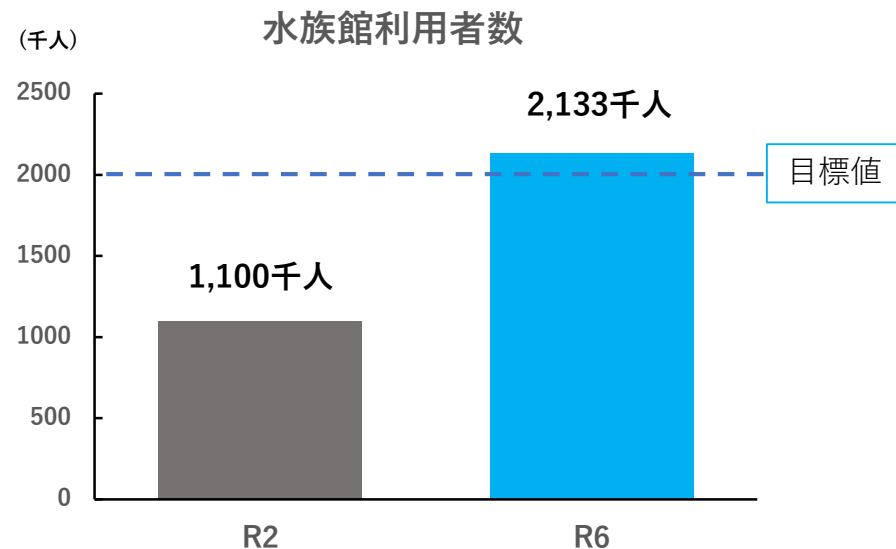
Ⅱ 定量的指標の達成状況

水族館の利用者

1,100千人
R2当初



2,133千人
※開園後から1年間
(R6.6～R7.5)

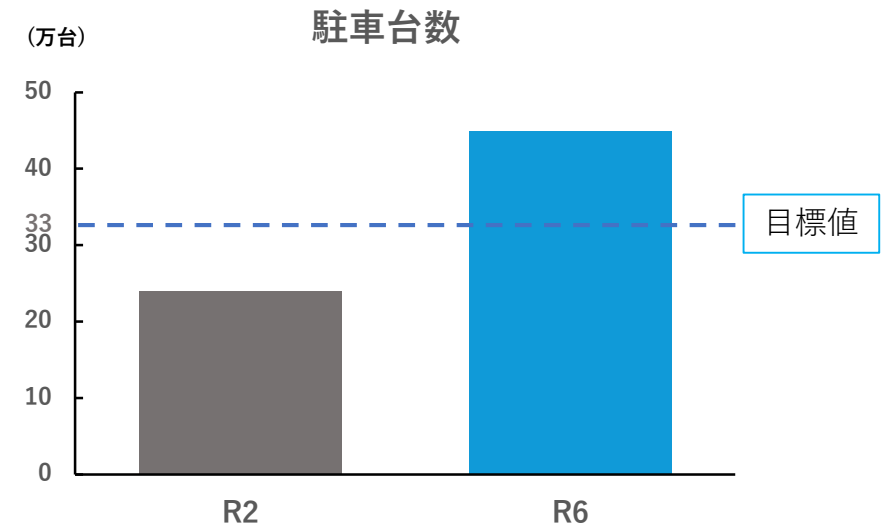


駐車場台数

24万台
R2当初



45万台
※開園後から1年間
(R6.6～R7.5)



事業効果の発現状況、目標値の達成状況

II 定量的指標の達成状況

● 駐車場台数増加への対策

- ▶ 入庫・出庫待ち列の対策として、スマートパーク（ナンバープレート認識技術を利用したゲートレスの駐車場）の導入を行った。
- ▶ 駐車台数が集中しないよう、水族館の入園者数を時間ごとに制限した。
- ▶ ホームページ上で駐車場の空き状況を確認できるようにした。
- ▶ 円滑に駐車場に入庫できるよう、繁忙期には駐車場の案内看板の増設や誘導員の配置を行った。
- ▶ その結果、駐車台数は目標を達成しながらも、円滑に駐車場を運営できている。

事業効果の発現状況、目標値の達成状況

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況

● 整再整備前後の利用実態調査

- ▶ 再整備前：「1人」での来訪者が多い傾向
再整備後：「家族」や「グループ」での来訪者が増加
- ▶ 水族館のみを目的とした観光だけでなく、
公園内の他の施設もあわせて活用されるようになった。
- ▶ 水族館やホテルだけでなく、園地の改修を一体的に実施したことにより
園地全体の利便性や園路のバリアフリー化が図れた。
公園利用者向けのサービスの充実、地域の活力やにぎわいを創出した。

特記事項

- ▶ 今後も引き続き公園の魅力を高め、地域の賑わい創出や魅力向上に寄与するように、官民連携で公園の運営を実施していく。

